

女夫石遺跡発掘調査速報

No.36

No.32 でご案内した「信仰の山・苗敷山ウォーク」の様子をご紹介します。天気予報では雨でしたが、参加者の皆さんのおかげで？雨になることなく実施することができました。スタート地点で登る山を見て、皆さん不安げでしたが、紅葉や道端の文化財や発掘調査現場や遠くの風景を見ているうちにあっという間に？登ってしまいました。平安時代から江戸時代まで、昔の人たちも歩いて山頂まで行って、願い事をしたのでしょう。登った皆さんにもきっとご利益がありますよ！担当者にもあるといいな～。



里宮から最初のきつい坂を登りきったところにある祠（ほくら）です。弓矢が奉（まつ）られています。山ノ神様をまつたもので、4月に地元で神事（しんじ）が行なわれているようです。このような神事も今や忘れられつつあります。でも伝えていきたい文化ですよ！



登る途中では、金峰山（きんぷさん）・富士山など甲斐の信仰の山が良く見えます。かすんでいましたが、五丈岩（ごしょういわ）も見えました！



沢リ：標高千祀の山に登るらしいよ。苗敷山（なえしきさん・ないしきさん）っていう信仰の山なんだって。

マキ：湖だった甲府盆地を人が住むことのできるようにした神様と関係が深いといわれているよね。

沢リ：里宮から山宮までの参道沿いには江戸時代に丁石（ちょうせき）が地元を中心に奉納（ほうのう）されているんだよ。途中には、江戸時代の前半にとっても大きな石鳥居が建てられたんだけど、すごく大きくて山の中腹にどんな方法で運んだのかとても不思議だよ。

マキ：そのくらい信仰を集めた山ということだよ。

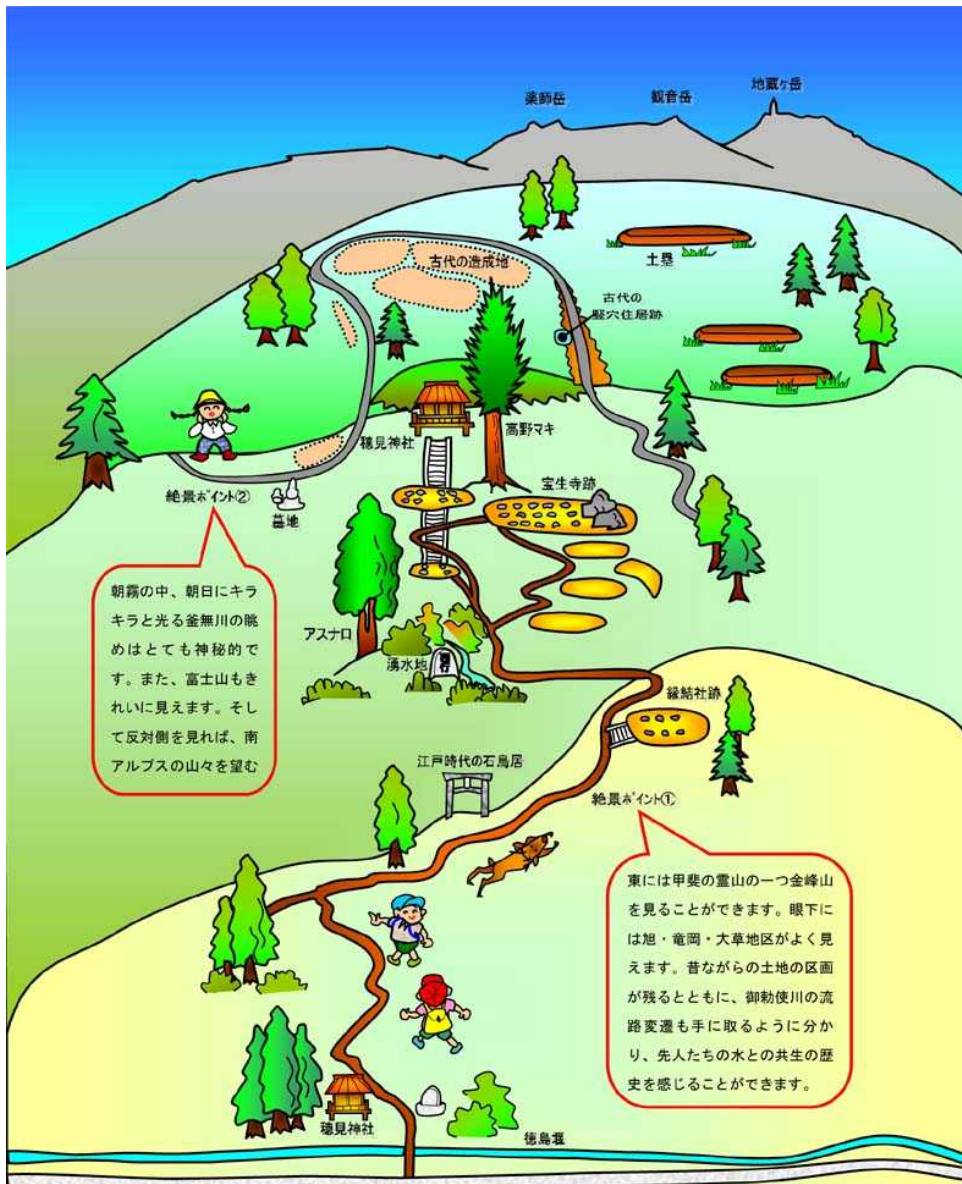
沢リ：山宮の下には、宝生寺（ほうしょうじ）の礎石（せせき）がきれいに並んでいて、当時、とても大きなお寺があったことが良く分かるよ！あの武田氏とゆかりのある武田八幡宮の棟札（むすぶだ）には苗敷山の阿闍梨栄真（あじりえいしん）という名前が書かれているから、武田氏とも関係がありそうだよ。

マキ：発掘調査では平安時代の頃から信仰の山として存在したことを裏付けるような成果が得られているんだってさ！（つづく）



山梨県埋蔵文化財センターの方から今回の発掘調査の成果について説明していただきました。

石を集めて土器を細かく割って、火をたいたような行為をしたようです。日常生活ではそのようなことはしないので、何か特別な祭祀（さいし）の跡ではないかと想定できるんだって！また、平安時代に山を造成して平らな場所を作っていることも分かりました。



朝霧の中、朝日にキラキラと光る釜無川の眺めはとても神秘的です。また、富士山もきれいに見えます。そして反対側を見れば、南アルプスの山々を望む

東には甲斐の霊山の一つ金峰山を見ることができます。眼下には旭・竜岡・大草地区がよく見えます。昔ながらの土地の区画が残るとともに、御勅使川の流路変遷も手に取るように分かり、先人たちの水との共生の歴史を感じることができます。

荏苒市教育委員会 学術文化財係作成 原画O-H デジタルU-T

苗敷山の歴史景観散歩イラストマップ



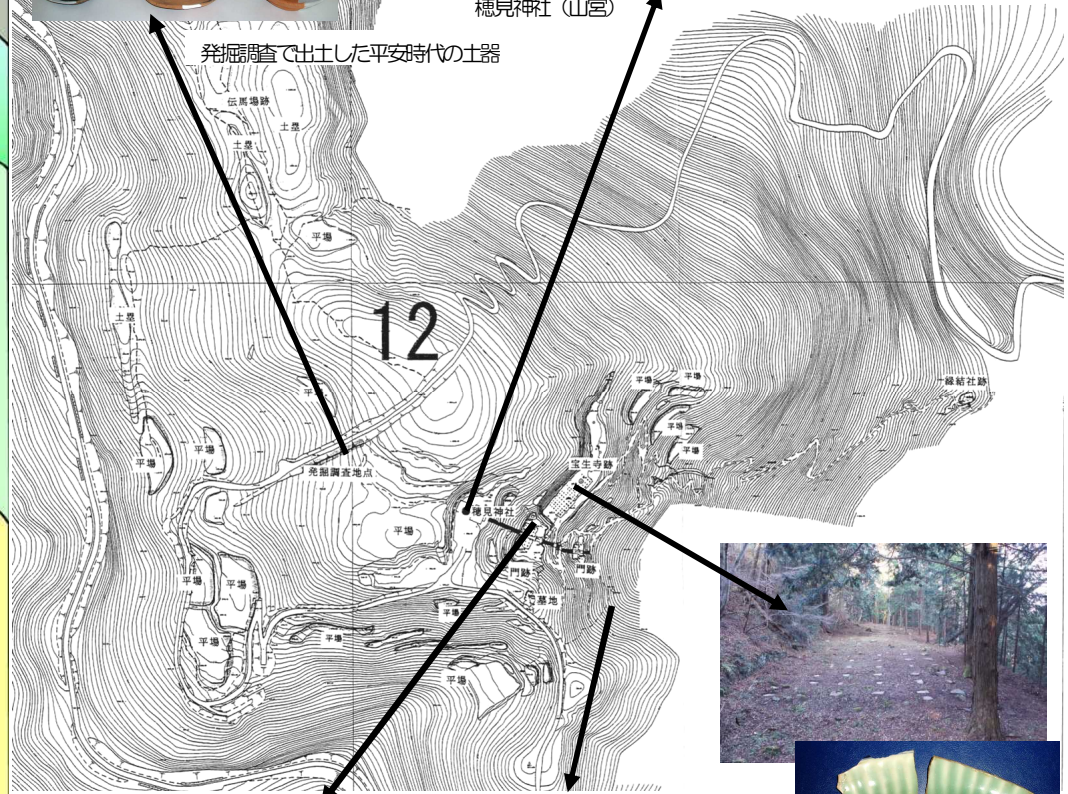
発掘調査で出土した平安時代の土器



穂見神社 (山宮)



山宮周辺の石造物



県指定「アスナロ」



市指定「高野マキ」



宝生寺跡の礎石と出土した陶磁器

作成：荏苒市教育委員会 教育課 生涯学習担当 「U-T」

0551-22-1111 (内269) 平成18年11月24日